

情報通信月間参加行事 実施報告書

行事ID	主催団体	行事形式	行事名	開催日
C037	(一社) 情報通信ネットワーク産業協会	3.ICTセミナー等	小池 良次氏 講演 「5Gアドバンスに向かう米国通信業界」	7月5日
開催場所		行事 参加者数	Webサイト・URL	
CIAJ A-C会議室 / オンライン併用		127	https://ischannel.ciai.or.jp/seminars/132	

行事実施概要・アピール等

【講師】

小池 良次氏(米国在住ICTジャーナリスト)

【概要】

CIAJ グローバル市場調査委員会 小池WGでは、本分野の先端を走る小池氏から直接話を伺い、対面での質疑応答や議論が可能な数少ない場を提供し、参加企業のグローバル市場動向の把握に役立てていただくことを目的に開催。今回、本年度第1回開催分につき、CIAJセミナーとして会員限定で公開。

- 1) 5G Advancedを軸に動きを活発化させる米国通信業界の状況を分析。携帯大手3社はAPIエコノミーに注目し、スライシングなどのサービス化を模索する動きが活発化。新興のDishはSI開発が負担になり5G設備投資の余力を失い、顧客流出や経営幹部流出による経営が弱体化する等、財務的に厳しい状況。
- 2) ハイパースケーラーは一気に生成AIに投資をシフト。通信業界も生成系AIサービスの影響で既存ネットワークの修正が必要だと考えられるが、生成AIビジネスモデルの方向性が見えるまで今後2~3年かかる。
- 3) 6Gは「超高密度、超低遅延、超広帯域」通信をサポートする自律処理システムに適したネットワークになる。

CIAJセミナー

小池 良次氏 講演
「5Gアドバンスに向かう米国通信業界」

口 講 師：米国在住ICTジャーナリスト
小池 良次氏

口 主 催：一般社団法人情報通信ネットワーク産業協会 (CIAJ)
グローバル市場調査委員会

口 協 賛：情報通信月間推進協議会

口 日 時：2024年7月5日(金) 10:00~12:00

CIAJ

CIAJ研究会

開始までしばらく
お待ちください

恐れ入りますが、ログイン後は、
マイクMUTE、カメラOFF、
をお願いします

5Gアドバンスに向かう米国通信業界

小池良次
2024/07/05
Contents DotCom

・本セミナーは、弊会のプライバシーポリシーに基づき、記録を目的として写真撮影を行います
<https://www.ciai.or.jp/privacy/>

・写真は、広報目的で利用する場合がございますので、ご了承ください

画面の録画・撮影、録音は禁止とさせていただきますので、ご協力お願い致します

講師 | 小池良次氏

まとめ

- ・ ストリーミング放送が普及するにつれ、大手CATV事業者はブロードバンド事業者へ業態転換を進めている。既存DOCSIS4.0は5G Advanced同様、分析系AIへの対応までは考慮しているが、生成系AIサービスはカバーしていない。
- ・ 生成系AIサービスに対応し既存ネットワークの修正は必要だと考えられているが、生成AIのビジネス・モデル自体が見えていないため、現状では具体的な対応ができない。方向性が見えるまで、今後2~3年かかるだろう。
- ・ 一方、大手企業はAIサービスの開発に投資を回す傾向になっており、既存のIoT・エッジコンピューティングが狙うAR/VR、自立運転車両/無人機などの開発投資は減り、商業化の時期は遅れるだろう。
- ・ ストリーミング放送は多チャンネル化と多様化が急速に進んでいる。多彩なチャンネルを効率よく統合し、広告やサブスクリプションを最大化できるストリーミング・プラットフォームは重要になってゆく。同分野の覇権競争は活発化するだろう。
- ・ 通信業界も生成系AIサービス開発の影響で、IoT・エッジコンピューティングを変える5G Advancedの修正を検討する必要がある。生成AIビジネス・モデルの方向性が見えるまで数年が必要だろう。
- ・ 5G Advancedに入った通信業界は今年、API (Network Exposure Function) サービス開発に注力する。とはいえ、スライシングをAPIと一体化させるのは簡単ではない。
- ・ 米国の通信業界は設備投資を抑えざるを得ない。大手ケーブル事業者はDOCSIS4.0のアップグレード投資を始めるが、機器認証などの問題があり投資の増加は緩やかとなる。
- ・ 衛星通信と地上携帯網を統合するD2Dは、黎明期でサービスの本格化には数年が必要。5Gほどではないが、その投資額は大きく、どのような事業者が負担するかは見えていない。
- ・ パブリック・クラウドに適した「広く、あまねく、サクサク」と利用できるネットワークは5Gである程度達成された。6Gでは「超高密度、超低遅延、超広帯域」通信をサポートする自律処理システムに適したネットワークに進化するだろう。

CIAJ 事務局

CIAJ 事務局